

第7回臨書展

【中央審査委員会賞】

主催 一般社団法人日本書字文化協会
後援 青梅市、中国大使館文化部
東京都青梅市日本中国友好協会
中国書法学院、国際芸術家連盟
NPO 法人日中文化交流促進会
中国国立南京芸術学院日本校
蘇州・寒山寺、蘇州呉昌碩研究会

秋田県・ノースアジア大学 2年
近藤 乃愛

作品は成長を振り返るための要

この度は中央審査委員会賞という名誉ある賞を頂き、大変嬉しく思います。毎年、特別賞入賞を目指し練習に取り組んできました。受賞の連絡がきた時は夢にも思っていなかったので、すぐに現実を受け止められませんでした。

臨書は原本を元にして作品を書くと言われます。しかし、墨の付け具合や筆の運筆の工夫を自分で作り上げることも必要です。中学生から臨書を書き始めましたが、最初の頃は原本を真似て書いていました。私は不器用で柔軟性がない性格で、いつも運筆に強弱がない作品を書いてしまうことが多いです。毎回指摘されても筆の感覚を掴むことができなかつたのが現状でした。それでも文字を書くことは楽しいです。作品を遺すことは、自身の成長を振り返ることのできる人生の要であり、宝物であると思います。

最後に、第7回臨書展の審査員の先生方に心から感謝を申し上げます。これからも上位入賞を目指し、日々精進して参ります。